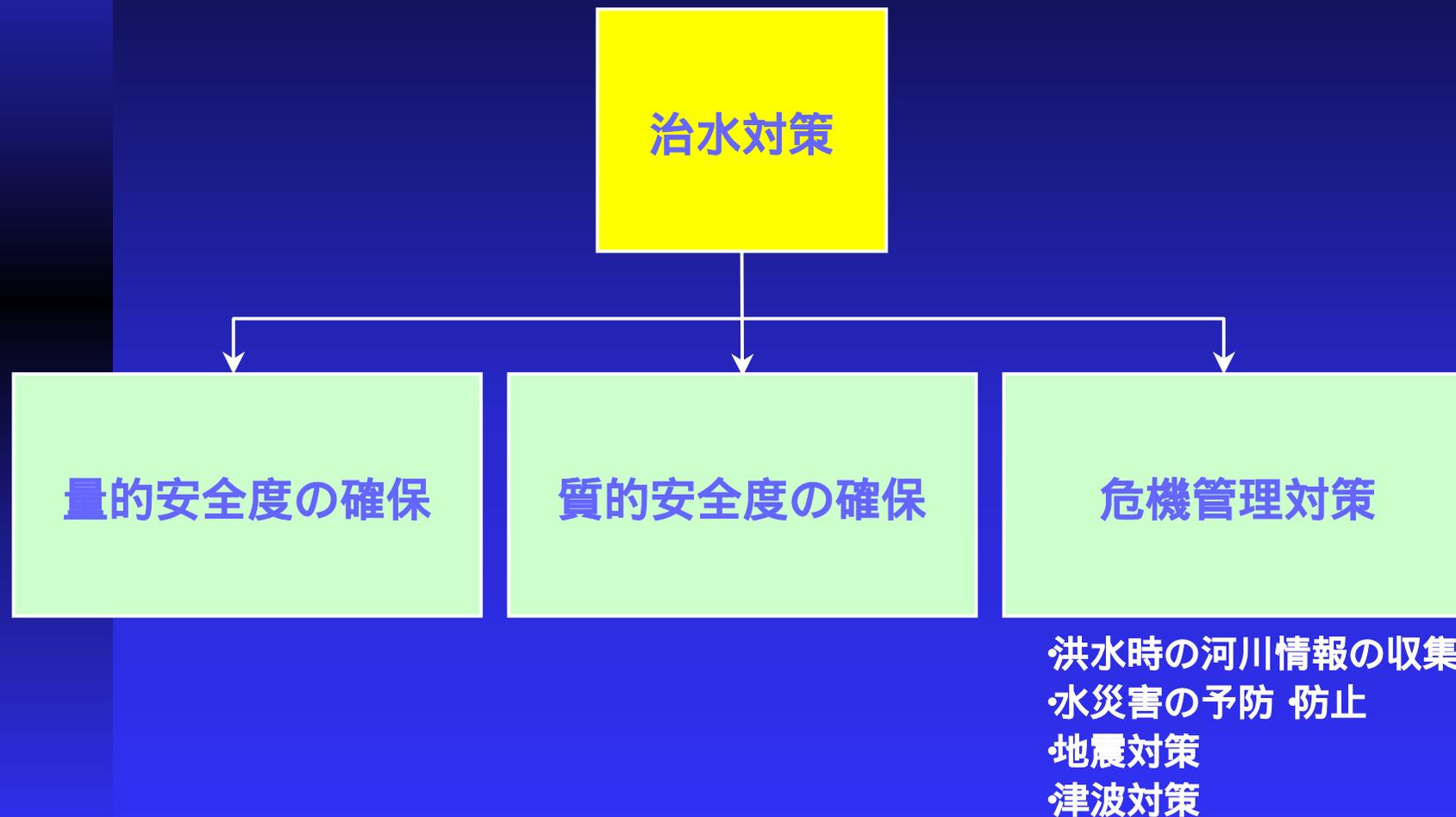


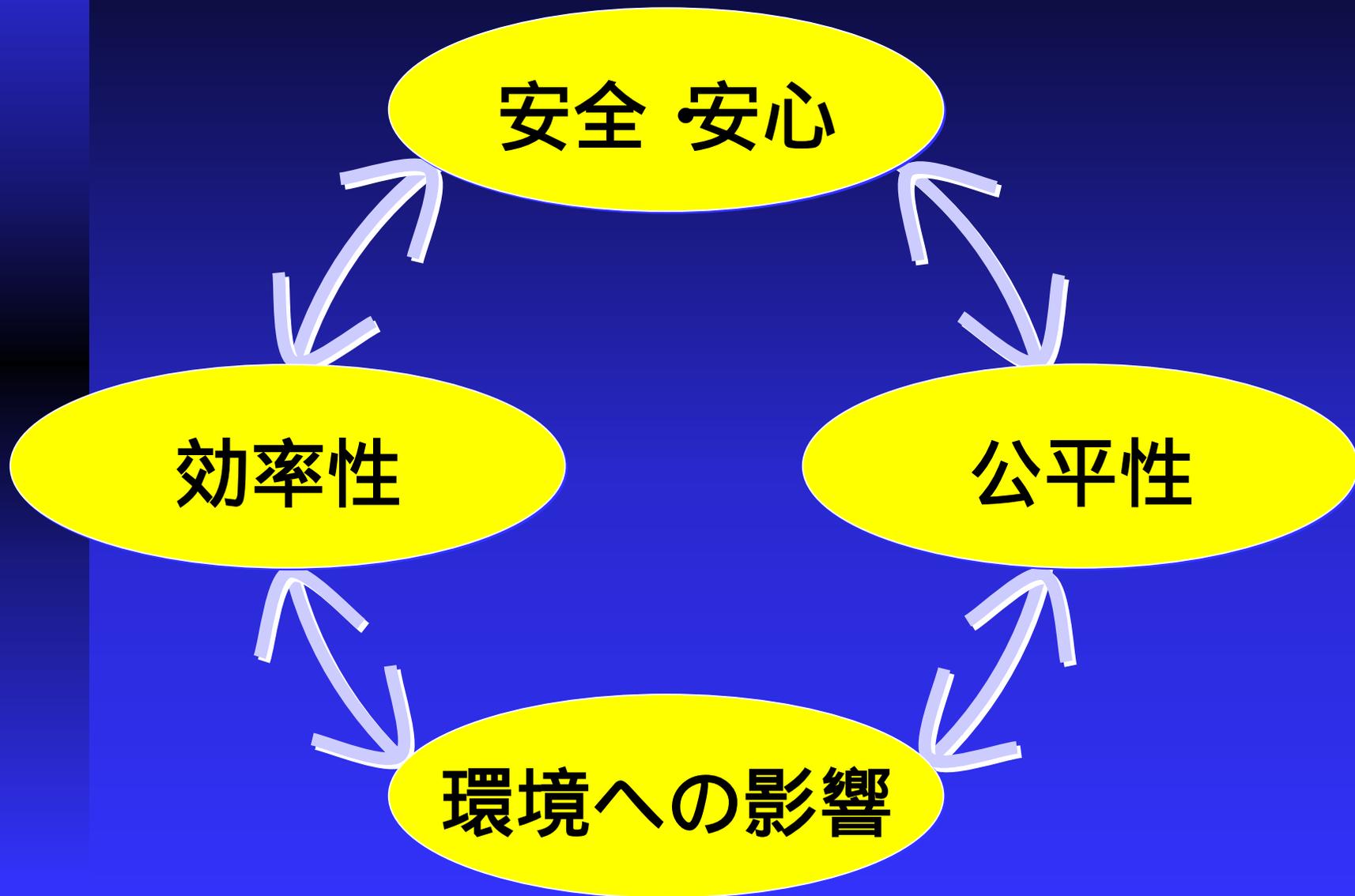
2. 治水対策の考え方

2 - 1 .治水対策の考え方

治水対策の流れ



紀の川河川整備計画における 治水対策の視点



紀の川河川整備計画における 治水対策の考え方 (1)

(1) 戦後最大規模の洪水 (昭和34年9月洪水) に
対して安全で安心してらせる河川整備の実施
戦後最大規模の洪水に対して人的被害を回避

(2) 公平性のある河川整備の実施

・浸水頻度の上下流バランスを考慮しつつ、治水
安全度を向上

紀の川河川整備計画における 治水対策の考え方 (2)

(3) 効率性を考慮した河川整備の実施

戦後最大規模の洪水に対して洪水被害が懸念される箇所において効率的な河川整備を実施

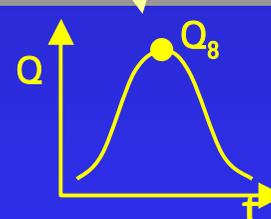
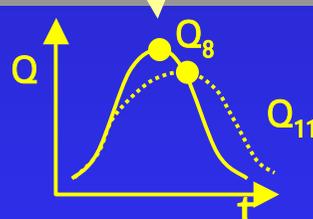
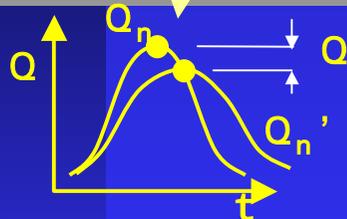
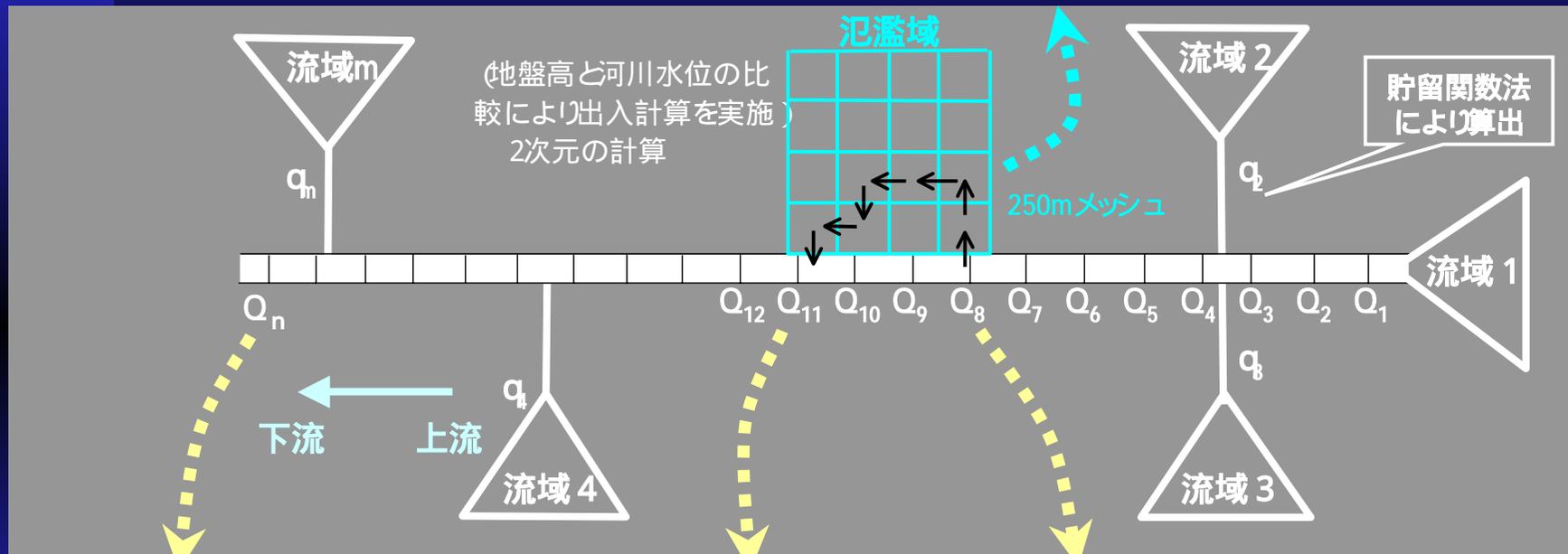
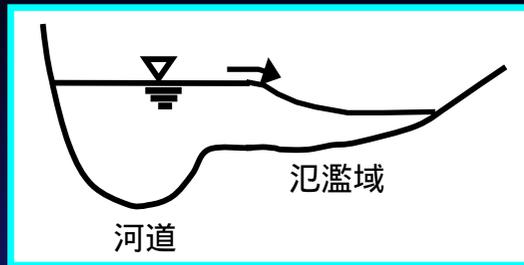
(4) 環境への影響を考慮しつつ、河川整備を実施

環境への影響を考慮した河川整備を実施し、モニタリングを継続実施

2 - 2 . 目標流量流下時の

危険箇所分析

氾濫解析



- Q_n' : 氾濫域がない場合
- Q_n : 氾濫域がある場合
- Q : 氾濫域による効果

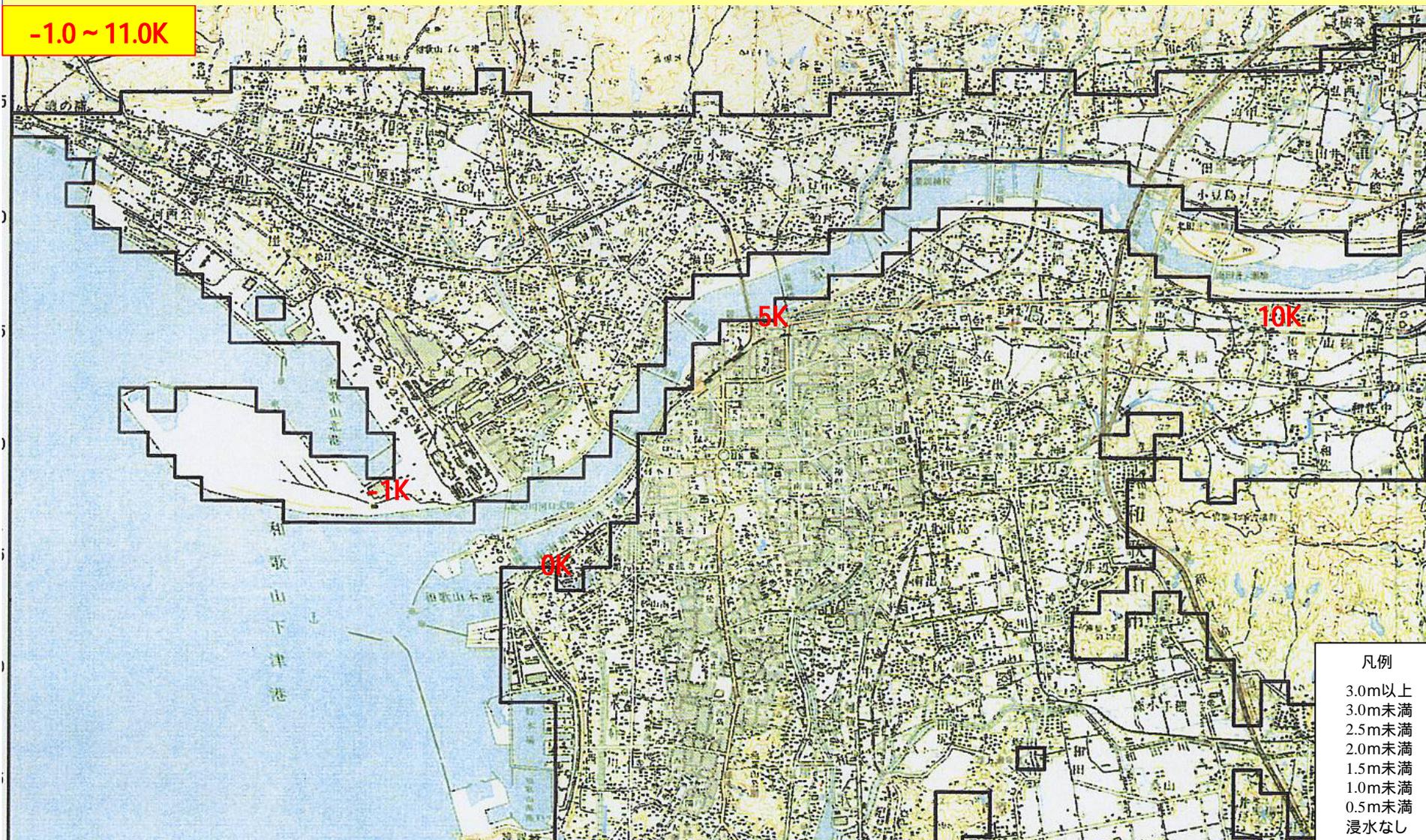
解析手法	氾濫域の計算	河道流量の計算方法	計算時間	計算の精度
氾濫解析 (二次元不定流計算)	堤内地盤高と河川水位の比較により出し入れ計算を実施	200mピッチで計算	2秒単位	高い

昭和34年9月型洪水 (計画雨量313mm) における氾濫状況 (1)

大滝ダム
2500m³/s一定放流

現況

-1.0 ~ 11.0K

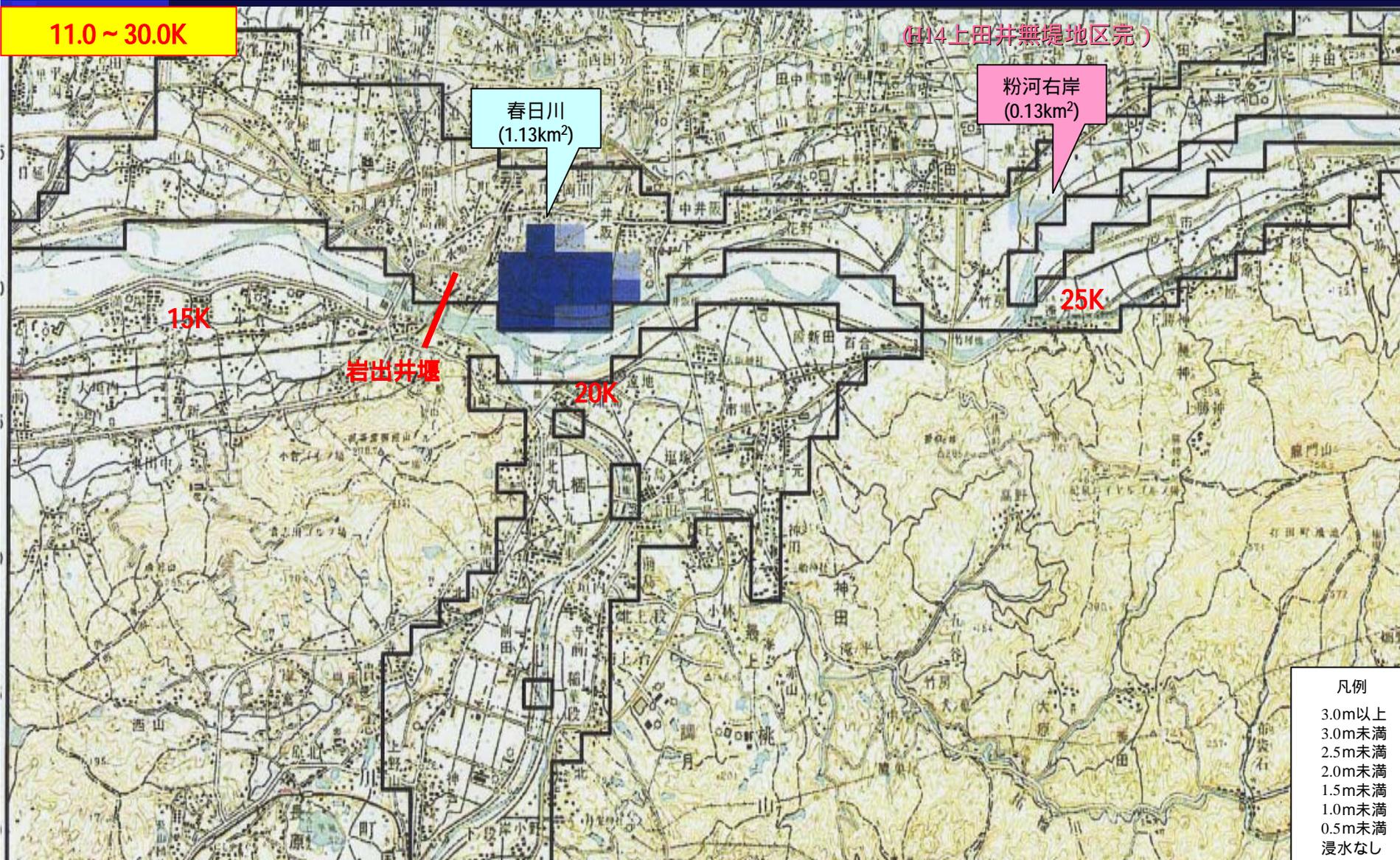


昭和34年9月型洪水 (計画雨量313mm) における氾濫状況 (2)

大滝ダム
2500m³/s一定放流

現況

11.0 ~ 30.0K

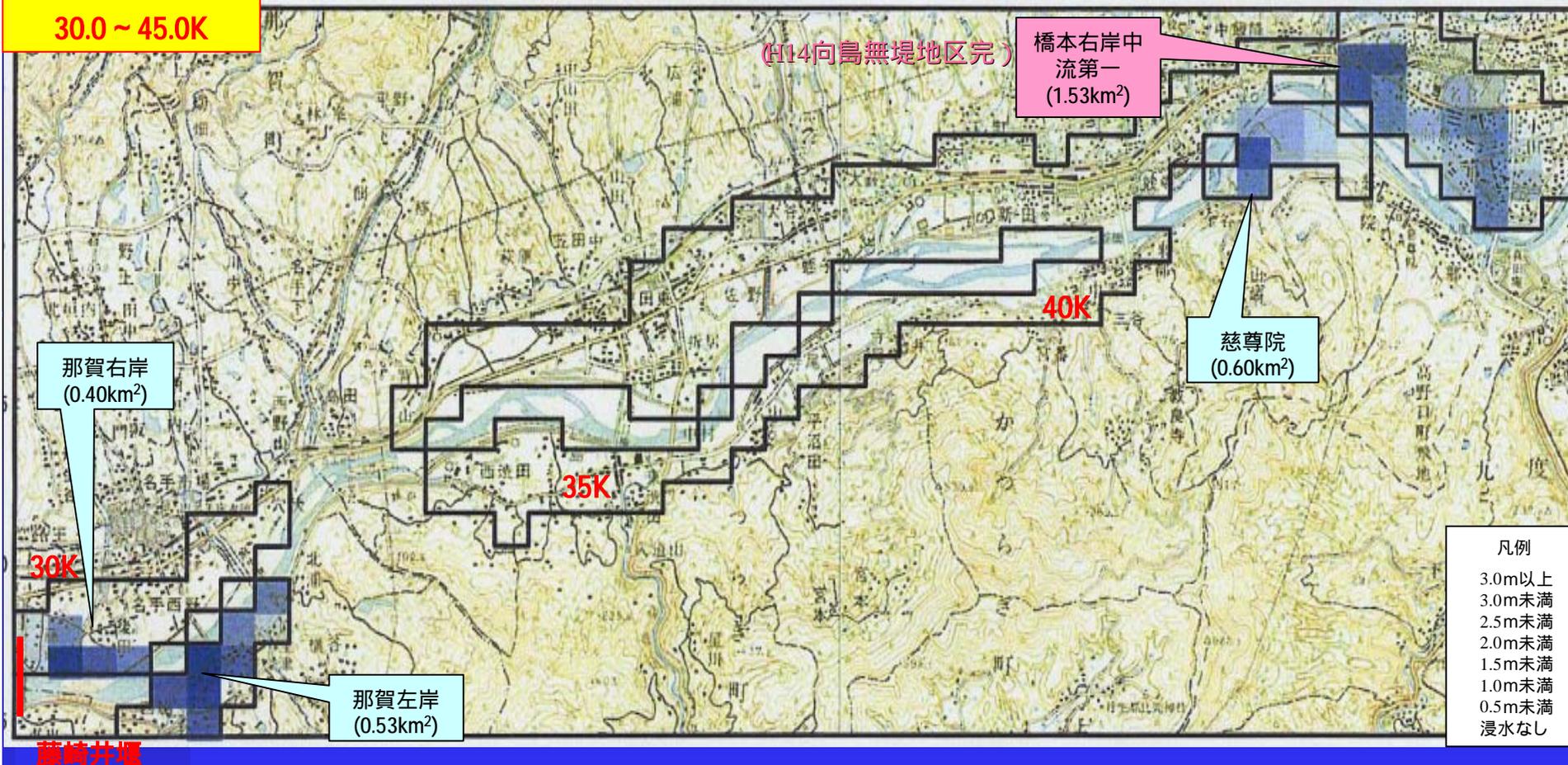


昭和34年9月型洪水 (計画雨量313mm) における氾濫状況 (3)

大滝ダム
2500m³/s一定放流

現況

30.0 ~ 45.0K

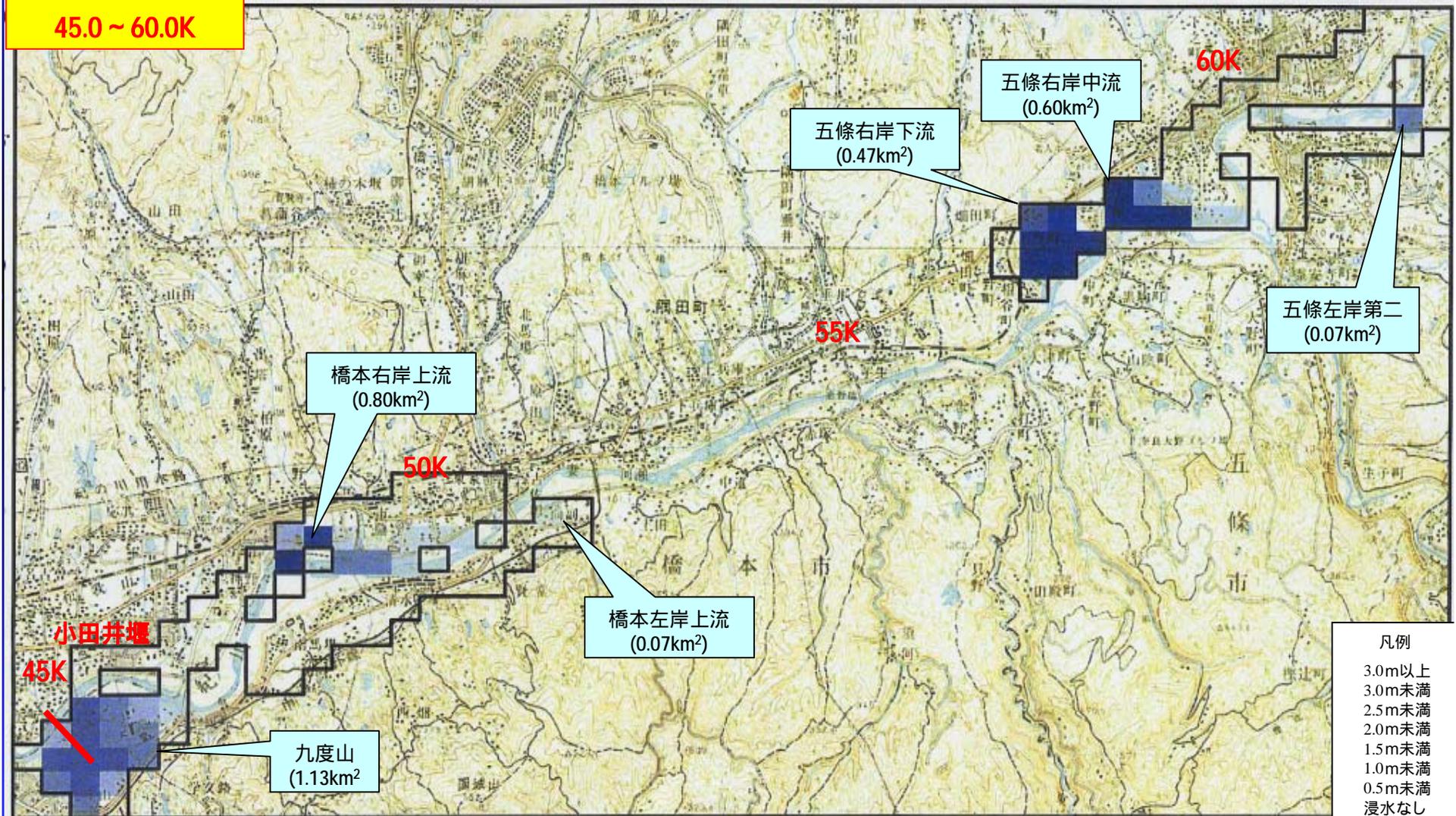


昭和34年9月型洪水 (計画雨量313mm) における氾濫状況 (4)

大滝ダム
2500m³/s一定放流

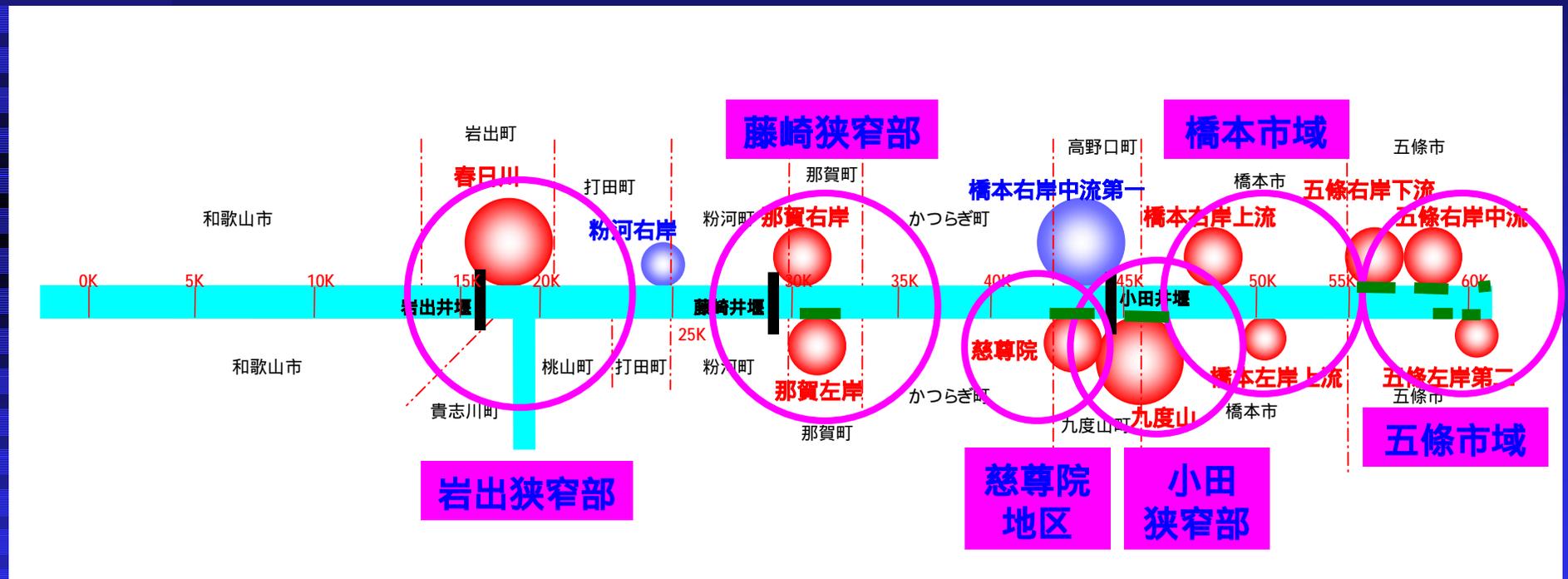
現況

45.0 ~ 60.0K



対策ブロックの設定

昭和34年9月型洪水 (計画雨量313mm)における氾濫箇所に対して、対策ブロックを以下のとおりに設定する。



凡例

- 現況想定氾濫ブロック
- H14年度対策済
- 無堤箇所

流下能力図

